

## 西洋医学の上陸地点

### 出島

「出島」は1636年、ポルトガル人を管理する目的で長崎港内に築造された扇型の人工島である。

1641年に平戸からオランダ東インド会社の商館が移され、以後、約200年間オランダ人との交易がおこなわれた。「出島和蘭商館跡」として国の史跡に指定されている。

鎖国によって閉ざされた日本にとって、出島は唯一欧米に開かれた窓であった。出島からもたらされた書物は、医学や天文暦学などを大きく発展させた。蘭学を通して生じた合理的思考と自由・平等の思想は幕末の日本に大きな影響を与えた。

### シーボルト（1796 - 1866）

1823年に来日し、「出島」のオランダ商館医となる。

1824年には鳴滝塾を開設し、西洋医学（蘭学）教育を行う。日本各地から集まってきた多くの医者や学者に講義した。

その間に日本女性の楠本滝との間に、娘楠本イネをもうけた。

### ポンペ（1829 - 1908）

1857年から5年間、幕府からの要請を受けて、28歳の若さで来日しオランダ医学を伝えた。

同年11月12日「長崎奉行所西役所」で、松本良順ら12名に対し、最初の講義を行った。

これが医学伝習所のはじまりであり、この日が長崎大学医学部の創立記念日となっている。

日本で初めての西洋式病院である「小島養生所」を設立した。

彼の長崎時代に残した言葉が、長崎大学医学部に銘板として残されている。

『医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。』

### 新長崎市立病院（仮称）

「出島和蘭商館跡」から300m、「長崎奉行所西役所跡」から400m、「小島養生所跡」から500m、まさに西洋医学の上陸地点ともいえるところに長崎市立市民病院は存在する。

現在414床であるが、同じく長崎市立である成人病センター(176床)と統合し、現在地で506床の新病院として、平成26年春の開院を目指している。

救急医療、高度急性期医療、マグネットホスピタルの三つを合言葉に、平成22年度から設計に入り、救命救急センターも新設する。